

新しい学習指導要領解説を読む 解説を授業づくりに活用しよう！

7月3日に新しい学習指導要領の解説が公表されました。すでに移行期間に入っていますが、一度はもう目をしましたか。3月の時点で素案はできていましたから、かなり慎重に議論されたものと思われます。なお、現在、道徳科の評価について委員会で審議しており、12月には審議結果が公表されるそうです。評価のあり方が書き加えられ、来年度、さらなる改訂版が出されるということです。

1 内容項目

今回、指導内容（内容項目）の書きっぷりが大きく変えられました。授業のたびに私は必ず内容項目のページに目を通します。その授業で指導する価値をどのようにとらえ、どのように教えるかを決める際に役立ちます。

小学校版ではP24（中学校P23）から記されています。順番の入れ替えはありますが、内容項目は今までと同様に、主として自分自身、他人、集団、自然とのかかわりの四つの視点でまとめられています。新しい解説になって使いやすくなった部分が次の3点です。

（1）価値の内容を表すキーワードが付けられました。

今まで、指導案には1-(2)や2-(6)などの価値を表す番号と別に「正直・誠実」「思いやり」などの価値内容を表すキーワードを必ず書いてきました。このキーワード、今までは学習指導要領にその記載はありませんでした。さらに、3月の時点では付いていなかった内容項目の整理番号も通し番号で付けられました。とても扱いやすくなりました。

（2）小学校から中学校までの指導内容の系統性が分かる構成となりました。

今まで、小学校の解説では、価値に関する

指導内容や価値のとらえ方、発達段階を踏まえた指導上の留意点が、低・中・高・中学と別々に示されていました。指導の系統性を見る際は、4か所を見なければなりませんでした。それが、今回の解説では内容項目ごとに1か所に集められ、2ページで編集されました。小学校の先生でも中学校まで見据えた指導ができるように、それぞれの価値について、その段階でどのように、どこまで指導すればよいのかさらに分かりやすくなりました。

（3）それぞれの価値の指導で大切にしたいことが分かりやすく示されました。

どのページも、「各学年の指導目標」「子供の生活とのかかわり」「内容項目の概要」「各学年の指導上の留意点」で構成されています。

例えば、A2〔正直、誠実〕の「内容項目の概要」には、次のように記されています。

児童が健康的で積極的に自分らしさを発揮できるようにするためには、自分の気持ちに偽りのないようにすることが求められる。また、自己の過ちを認め、改めていく素直さとともに、何事に対しても真面目に真心を込めて、明るく楽しい生活を心掛けようとする姿勢をもつことが大切である。（中略）それら（過ちや失敗）を乗り越えようとするのが正直な心であり、自分自身に対する真面目さであり、伸び伸びと過ごそうとする心のすがすがしい明るさでもある。このような誠実な生き方を大切にすることを育てていくことが重要である。

この部分には、学問的見地や一般常識から見た〔正直・誠実〕のとらえ方が記されています。ねらいが明確でブレない指導をするためには、指導者自身が価値を正しく理解する必要があります。

紙媒体として常に解説を手元に置き、授業づくりに活用したいものです。

2 多様な方法を取り入れた指導

「考え、議論する」道徳科への転換を図るために、今改訂の目玉として取り入れられた内容です。「問題解決的な学習」や「道徳的行為に関する体験的な学習」などの多様な指導方法について、学習指導要領には次のように記されています。

(5) 児童の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること。その際、それらの活動を通じて学んだ内容の意義などについて考えることができるようにすること。また、特別活動等における多様な実践活動や体験活動も道徳科の授業に生かすようにすること。

学習指導要領作成に携わった京都産業大の柴原氏は、この内容について、「道徳性を養うという指導のねらいのために適切に問題解決的な学習を取り入れてほしい」「道徳の問題解決的な学習と、特別活動等で行われる同種の活動とを混同しないでほしい」との願いを込めたと話していました。

では、道徳の問題解決的な学習とは、どのような学習なのでしょう。道徳における問題解決型学習の第一人者で、岡崎市教育研究会助言者の岐阜大柳沼氏が執筆された中学校版の解説を中心に見ていきたいと思います。

中学校版の解説 P94 (1)「問題解決的な学習の工夫」に、道徳科としての「問題解決的な学習」について次のように記されています。

道徳科における問題解決的な学習とは、生徒一人一人が生きる上で出会う様々な道徳上の問題や課題を多面的・多角的に考え、主体的に判断し実行し、よりよく生きていくための資質・能力を養う学習である。

この続きに、あまり具体的ではありませんが、次の例が挙げられています。

- ・人間としてよりよく生きていくために、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、人間としての生き方について深く考え、適切な行為を主体的に選択し、行為することができる実践的意欲と態度を育むような指導であること
- ・日常生活での問題を道徳上の問題として把握したり、自己の生き方に関する課題に積極的に向き合い、自分の力で考えよりよいと判断して、行為しようとする意欲を培ったりすることができるものであること
- ・課題を自分との関わりや人間としての生き方との関わりで見つめたときに、自分にはどのようなよさがあるのか、どのような改善すべきことがあるのかなど、生徒一人一人が道徳上の課題に対する答えを導き出すものであること

では、上の例から考えると、次の授業例は道徳の授業として有りですか無しですか。

- ・**主題名**「いじめを許さない言動」を
- ・**展開**
 - ① 資料内容に関して教師と3人の子供で演じるモデルロールを見る。
※ 移動教室に移動する時に、ある子供を仲間はずれにする役割演技
 - ② 資料の内容の確認後、登場人物の気持ちをワークシートに書く。
 - ③ 中心課題「いじめをやめさせるためにはどうしたらいいか」を話し合う。
 - ④ 学級全体で各班の発表についてよかった点、工夫したい点を発表し合う。
 - ⑤ クラス全体で最もよい解決策を決める。
 - ⑥ 4人一組で最もよいと決まった解決策に関するロールプレイを行う。
※ ロールプレイは4回行い、全員がそれぞれの立場を経験できるようにする。
 - ⑦ 振り返りシートに授業の感想を書く。
（「問題解決学習」と心理学的「体験学習」による新しい道徳授業諸富祥彦著 図書文化）

改訂のきっかけとなったいじめ対応の授業例です。さあ、先生方はどう判断されますか。